時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價は左の如し

時事新報定價（府外遞送には此他後に掲ぐる遞送料を要す）

一號　貳錢五厘○一箇月　前金五拾錢○三箇月　前金壹圓四拾五錢○六箇月　前金貳圓八拾五錢○一箇年　前金五圓六十錢○月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末一切休刊せず）

前金　一旦受取りたる前金は凡て通貨を以て返戻する事なく新聞紙代の前金は新聞紙を以て又廣告料の前金は廣告を以て勘定する事と御承知被下度候

時事新報遞送料

一　日本國內並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一箇月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一箇月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀、布哇諸嶋　一箇月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠太利　一箇月　金五拾錢

五　露領新嘉坡、清國諸港　一箇月　金三拾五錢

時事新報廣告料（前金）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢	十錢五厘

廣告料定價　時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の內には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絕する事もあるべき筈に付豫め廣告依頼者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を供給せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社はさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に送したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

市區改正事業の進歩如何

東京市區改正事業は當初凡そ五十年を期して完成せしむる目的にて其費用として年々三十萬圓乃至五十萬圓を支出するに決し之を補助する爲めにて政府より官有河岸地を無代價にて下附せられ且つ清酒に入市稅を課するの特許を得たれども其後市公債を募集して水道工事を起し前記五十萬圓以下の市區改正費中より二十五萬圓を割て公債の償却並に其利子支拂に充つるみとしなりたれば殘る所は二十五萬にして而かも實際徵收する金額は四十萬圓前後に止り市區改正に使用す可きものの比價に十五萬圓內外に過ぎず其內より更に委員の費用[illegible]査費等を支出するが上に淺草其他大火の[illegible]借入れて費算外の支出を爲す其利子幷に元[illegible]の爲め少からぬ金を費するが故に目下の處[illegible]に於て可き費金は每年十萬圓にも足らざる歟[illegible]左れば事業は遲々として進歩せず僅に東京[illegible]時と[illegible]なりて錢を費する最も少なき場所より少々づつ改正を行ふのみにして土藏塗屋多く火事少なくして賈上に費用を要する所は肩摩轂擊雜沓を極めて最も改正の急を告ぐるも自から後廻しと爲りて場末の方は却て先きにせらるゝの傾きあるのみならず改正の爲めに幸に大火事ある迄今の有樣にては其跡に手早く改正を行ふみとすら望む可らざるが如くにして明治何百年の後に至て完成を見る可きや殆んど計り知る可らず嘱き堪へ難き次第なれば市民も大に奮發して一層工を急がんみと我輩の希望する所なり其次第は第一、市中の地價の今後益々騰貴す可きは今日迄での成行に徵し明なれば事業を遲延せしむるに從て其買收の爲めに資金を要するみと益々多かる可し第二、首府の繁昌、今後いよ〳〵著しきに從て今の市區に不便を感ずるみといよ〳〵深く到底永く堪ふ可らざるに至る可きは明なり第三、帝都の壯觀を望むの點に於て永く今の不規則なる市區に安ず可らず第四、便利壯觀の爲めに必要なる事業に錢を愛んで百年も二百年も成功を見ざるは市民の意氣地なきを示すものにして其面目を損するものと云ふ可し凡そ是等の理由に依り我輩は事業の急施を促すものにして急施するには一時に大資本を要すれども今や幸ひ世間には資本豐にして金利安く市公債も百圓以上の市債を有するみとなれば更に市公債を募集して着々工を進め少くとも三五十年の間には大略完成せしむ可し或は清國より入手したる償金の內より一千萬圓許り借用して取敢へず急要の改正を行ふも亦一策ならん三十年の間に之を行ふも百年の間に行ふも入る丈けの金は入るものとすれば寧ろ急に施行して一日も早く前記の利益を樂むに若かず特に其利益は獨り工事を起したる當代の市民のみ之を受くるに非ずして後世の人も等しく受くるものなれば爲めに多少の借財を遺すも子孫に於て少しも苦情ある可らず即ち我輩市民に向て奮發を促す所以にして市政の局に當るものも徒に其負擔を輕うして俗情に阿らんみとのみに汲々たる可きに非ざるなり

雜報

○英國陸軍の現況

英國陸軍の事に就ては昔て本紙に記載する所ありしが尙ほ同國政府が國會へ提出したる報告に依れば千八百九十四年の常備軍は二十萬九千百二十一人にして千八百七十五年以來その例なき多數なり又本年一月一日には二十二萬二千百五十一人に增し內、英蘭とウェールに七萬六千七百人、愛蘭に二萬五千二百六十二人、蘇蘭に三千九百八十五人、海峽諸嶋に千八百六十三人にて合計十萬七千八百十人なり又本國外のものは印度に七萬七千四百九十二人、諸殖民地に三萬千七百八十三人、埃及に五千六十六人なりとす

千八百九十四年中に增加したる兵の全數は三萬六千六百五十七人にして其內新兵三萬三千六百九十八人之を細別すれば年限三年のもの千三百六十八人、七年のもの三萬六百二十二人、一層長き年限のもの千七百八人にて此外千八百三十三人は一旦逃亡して再び入籍したるもの、五十人は豫備より、其餘の千七十六人は種々なる原因に由て何れも增加せしなり又同年の間に減少したる人數は三萬三千九百六十五人にして千七百九十二人は死亡し三千九百五十八人は逃亡し千七百九十二人は不品行を以て軍籍より除かれしものにて一萬六千二百二十九人は豫備に編入されしなり斯く增加の數と減少の數とを對照し差引き純粹の增加は二千六百九十二人となる可し

新兵三萬三千六百九十八人の中にて二十歲以下のものは二萬三千三百五十二人なり又騎馬兵の數は本年一月の八萬二千八百四人なるに昨年の同月には八萬五百三十人にして蓋し千八百七十六年以來八萬人以上に達したるみとは曾て其例を見ず尙ほ又民兵隊は十二萬千六百六十七人にして定員より少きみと一萬三千百七十二人又農騎兵隊は一萬十四人にして千五百五十九人の欠員、義勇兵は二十二萬四千五百二十五人にして其定員は二十六萬千百五十五人なりとす次に馬匹の總數は昨年一月には二萬七千百三十頭なりしが本年は二萬六千二百十六頭に減ぜりと云ふ

○波斯への道路開築

曩に高加索交通區附の技師はレンコラニ若くはアスタラなる裏海に瀕する露國の一港より波斯のタウリーズに抵るべき道を開築するに附き其測量を施行せしが今回高加索長官は右技師の測量成蹟を審査したる上開築すべき道をアスタラよりアルデビーリを經てタウリーズに達せしむるみとに確定したり蓋し此方向に從ふは唯地方の事宜に適ふのみならずレンコラニを起點とするよりも距離に於て半以上を短縮し最利の工事費に於て百萬留を節減し得べきを以てなり此の如くにして設計の道は成るべく國境を遠かり深く內地に入りて波斯の領土內を經過せしむるみとゝ爲りたるが尙ほ別にアスタラより海岸に沿ひレンコラニの近傍なるサラ嶋に通ずる道を開築し以て天候の穩ならざる時に際し露國より波斯に至る商船をして必要あらばサラの定繫所に於て貨物の陸揚を爲さしめんとの計畫もありと云ふ

○水害復舊工事の國庫補助

今夏前後二回の暴風雨には北陸、中國、九州等の諸縣下は各々多少の損害を被りしも其後調査の結果、九州、中國の各縣は孰も家屋船若くは作物等の被害にして別に土木修繕費の爲めに國庫の補助を要する程にあらず又滋賀縣の如きも隨分甚しき水害を受けたるには相違なきも是れすら備荒貯蓄金の支出を以て充分なるが如くなれば唯土木復舊工事の爲めに國庫の補助を要するは北陸の福井、富山兩縣のみにして其內福井最も甚しく其補助費額も既に報道したるが如く略ぼ內定したれども富山縣の方は未だ調査結了せざるを以て補助費額決定せず但し福井縣よりも餘程少額なる可き見込なりと云ふ

○北京の日本商品

清國北京には西洋人にして雜貨を販賣するもの二軒あり何れも公使館用達の名義にて營業し居り日々の賣高は莫大のものにて其商品中には日本製のものも尠なからず又清人の開ける洋貨舖には日本製品殆ど八九分を占め居れり此等日本品は悉く上海を經て輸入せるものにて價格の不廉なるみと驚くべく而も其賣捌け方は頗る盛にして前門とて北京の銀座通とも稱すべき繁華の地に店を開き盛に商ふ有樣は坐ろに雀躍の念を起さしむるものあり左れば日本人にして清國人と相結び其名を借りて洋貨舖を開き大阪邊より直接に品物を取寄せ廉價を旨として販賣したらんには上海商人の得意を奪ふのみにても非常の利益なるべし支那人の外國品を重愛するの情は實外深けれども何分價の廉ならざる爲め小兵は[illegible]なく控へ居る有樣なれば右の如く廉價にて販賣せば其利益は非常のものなるべしと北京[illegible]の通信に見えたり

○東華紡織會社

阪堺卯樓に開きたる[illegible]の紙上に記載せざ[illegible]佐伯勢一郎、野田吉兵[illegible]太郎、田村正寛、衞[illegible]承諾したり依て本月[illegible]所に於て委員會を開[illegible]等を議定したりと

○西大寺紡績株

西大寺に西大寺紡績[illegible]起人總會を開き設立[illegible]は四千萬圓鏈數は一[illegible]

○河內紡績會社

にて河內柏原に紡績會[illegible]兩日中に出願の筈な[illegible]

○綿帆布株式會

狩獵左衞門氏外數名の[illegible]株式會社を創立する[illegible]

○和歌山新取引

は株式仲買十一名、[illegible]酒造家等三十四名發起[illegible]綿絲取引所を出願[illegible]走中の由なるが和歌山[illegible]なさんとて同所理事[illegible]過般來上京運動中なり[illegible]

○中央生命保險

二十入日午後六時より[illegible]者は凡そ百餘名にて生[illegible]をして同會社設立の[illegible]を議定し役員の報酬は[illegible]圓、取締役百五十圓、監[illegible]員の撰擧に取掛りしと[illegible]濱中八三郎、監査役に[illegible]明の諸氏當撰し續て取[illegible]基氏を定め何れも承諾[illegible]認諾を得て本社を大阪[illegible]を各地に設くる筈にて[illegible]

○唐津鐵道創業

町に於て唐津興業鐵道[illegible]定し資本金百萬圓を百[illegible]行ひしに左の諸氏當選[illegible]社長加藤海藏（唐津）取締役[illegible]坂）大崎小太郎（唐津）坂本[illegible]西英太郎（多久）監査役共上[illegible]郎（大坂）

○艀船會社設立計

他諸貨物の出入益々頻[illegible]合興等は資本金五萬圓[illegible]船數十艘及び小蒸氣船[illegible]にありと又同發起人は[illegible]れば同社にては一昨日[illegible]なれを確定する筈なり[illegible]

○上田銀行取扱

[illegible]船會高は手形割[illegible]目下は其全部を國[illegible]扱ひたる生絲荷爲替金[illegible]しに就き此[illegible]右取[illegible]